

Randonneurs Japon 幹事会議事録

2004/06/19

場所: Y's Bike Academy (溜池山王)

出席者: (計19名、敬称略)

- ・ 暫定幹事:
加藤孝、平山、加藤裕子、内海、白木、斉藤、菅、片桐
- ・ 走行会主催予定者:
埼玉(泉、山口、小倉、納見)、神奈川(井手、本多、今富)、
愛知(大塚)、大阪(左海)、岡山(澤田)
- ・ オブザーバ:
北海道(片平)

有効議決数:

議長を除く暫定幹事各 1 票、主催グループ各 1 票、計13票

内容 記

1. 議長および書記

議長: ランドヌールジャポン(以下 RJ)会長 加藤孝

書記: 同幹事 内海太祐

2. 会議の位置付け

総会に次ぐ意志決定会議である。

3. 本議事録の位置付け

本議事録は 307 の議事録と同等な RJ の決定事項と公式見解を記したものである。

4. 採決方法

採決となった場合は議長を除く暫定幹事各 1 票、主催予定グループ各 1 票。同数になった場合には議長に議決権がゆだねられる。RJ のメーリングリストで何度もこの会議の性質については説明されているので今回欠席、委任状提出のなかった主催者グループ日立には投票権は無い。

上記は全会一致で承認された。

5. 307 決議の承認

全員承認し、署名した。

6. 用語の変更

今後走行会の運営を行うものを主管者から主催者と呼ぶことに変更することに全会一致で決定した。

また、プラクティスという用語も廃止する。走行会の用語は決まっていないが、この議事録では ACP 認定のブルベを RM ブルベ、RJ 認定のブルベを RJ ブルベ、それ以外を練習走行会と呼ぶこととする。

6. 来年度走行会スケジュール (平山副会長作成の資料参照)

6. 1 訂正事項

左海氏のメールアドレス: pukapuka@brevet.jp

6. 2 走行会の名称

現在のところ特別なものは「富士山1周ブルベ」以外は決められていない。

走行会の主催者は必要に応じてつけてください。

6. 3 来年度スケジュール

大阪: (左海氏説明)

春のシリーズ

200km: 2/26

300km: 4/9

400km: 5/21

600km: 6/4

秋のシリーズ

400km: 9/3,4

600km: 10/1,2 or 9/23,24 場合は岡山と相乗りの可能性あり。

今後は岡山主催予定者の澤田氏と相談。とりあえず保留。

300km: 11 月 (新宮ー小浜の行きっぱなし) 11/3,4 or 11/4,5

阿蘇: (左海氏説明)

現在阿蘇のグループと調整中。

200km: 4/2or 3

300km: 8/6,7 or 8/27,8 など。いずれにせよ盆をはずして考えたい。

神奈川: (井手氏説明)

200km: 2/6

300km: 2/19

富士(200km): 3/26

400km: 4/23

600km: 5/28

400km,600km はルート等まだ検討中。

岡山: (澤田氏説明)

300km 3/19,20 の連日日程については無理がある可能性もあるので再考する。

それ以外は平山氏の資料通り。

宇都宮：（斉藤氏説明）

現在日程調整は出来ていない。個人で運営しており難しい面もある。北関東で埼玉が立ち上がったので、場合によっては実施しなくても良い。

400km,600kmなどを埼玉と協力する用意はある。

埼玉：（泉氏説明）

日程は平山氏の資料どおり。ルートは峠をいくつか越えるもの。

なお、11/6に200kmの練習走行会を考えている。

中部：

平山氏の資料どおり。

北海道：（片平氏説明）

6/8に北海道ブルベ準備委員会を設立した。具体的な計画は今日の報告会の後に作成する。なお、北海道では5月から活動するので現時点は6月に200km,300kmの同時開催や5月200km,6月300kmの開催など考えている。ルートは200kmが札幌周辺、300kmは旭川などを考えている。

もちろん未定だが、400kmや600kmの練習走行会を実施する希望もある。

7. 来年度提出書類

7.1 提出資料についての決定事項（平山氏説明）

- 提出用書類のテンプレート(当日「カラオケ」と呼ばれていたもの)と提出書類のサンプルを幹事側で用意する。このRJ主催キットと呼ぶべきテンプレートとサンプルは来年度用提出書類の作成に間に合うように努力する。
- 6.3の内容を受けて平山氏は変更結果を反映したスケジュール表を各主管グループに送る。
- 各主管グループは8月末までにACP用、国内用の資料を作成し、平山氏に送る。なお、ACP用資料の地名はローマ字で記載すること。(これは今後のRJ主催キットに反映される)

7.2 検討事項

- ランドヌール・モンデュ(RM)の規則の明確な理解をすること。今までいろいろな事務的に必要な事項が曖昧なまま進んできているので必要に応じて予算を設けてもRMの規則の記されているフランス語を訳すなどのことが必要である。その上でRMの年度締め切りなどを明確化し、今後の運営に役立てていくべきだ。(白木氏)
- 少なくとも国内向け提出資料には地図をつけた方が良い。(斉藤氏)
- ルートの細かい変更もあるので、ACP向けの資料のコントロールポイントなどには都市名などある程度曖昧なものであるほうが良い。ACPにはコントロールポイントの変更などは届ける必要があるが、こうしておけば直前にコントロールポイントのコンビニがつぶれた場合などにも対処できる。なお、どの程度曖昧で良いかは要検討である。(左海氏)

8. 走行会の種類について

今回走行会の区分けについて次のような提案がなされた。

8.1 走行会の種類

走行会には次の3つが提案され、承認された。

1. ACP 申請する BRM 認定のブルベ
2. RJ の認定する BRJ 認定のブルベ(左海氏他)
3. 有志の練習走行会

なお、同時に走行会についてはプラクティスという言葉を廃止することが全会一致で承認された。
根拠としては、

- ・ 一般のライダーを集めて「プラクティス」は失礼にあたる(白木氏)。
- ・ さまざまな用途に「プラクティス」を使うと混乱を招く(井手氏他)。

というものである。BRM、BRJ、練習走行会にどのような名前を日本語で与えるかは検討課題。

8. 2 ブルベ(認定)についての検討課題

1. BRM, BRJ, 練習走行会に RJ としてどのような用語を充てるか(加藤孝氏他) ?
2. 国内ブルベのルールはどのようにするのか? (斉藤氏) ACP のルールにのっとるべき(加藤孝氏)という考えと独自ルールを作るべき(菅氏)の2つの考え方がある。
3. カテゴリわけについてもある程度主催者の裁量に任されるという意見(平山氏他)があったが、決定はされていない。今後の検討課題である。
4. UK にパーマネントというブルベがある。ACP ルールにのっとり走るが、1 人でも OK なもの。(井手)。
なおオハイオの根本さんもパーマネントに近いブルベをやったことがある。チェックポイントには都市名が書いてあり町の人にサインしてもらうというもの(左海氏)
5. 距離の組み合わせについても検討すべきである。
300,300,400,600 や 400,400,400,600 も海外では許されている。日本でも主催者が走れるように認定方法を広く見直すべきである(井手氏)

9. ホームページについて

- ・ 個人のものではない組織のサイトを立ち上げたい(白木氏)。時期は7月中旬から後半まで。
- ・ 斉藤氏の運営するページも接続できなくなっている。早く移行したほうが良いのではないかと(斉藤氏)。
- ・ 掲示板であれば左海氏のページに移行することも出来る(左海氏)
- ・ 具体的なことは内海が決める。(加藤孝氏)

9. 1 検討課題 (内海説明)

1. ドメイン名の決定
2. ドメインの取得者を誰にするかの決定
3. 支払方法の決定

10. 年次総会について (加藤孝氏説明)

日時: 10月30日土曜日、夕方から総会。

場所: 伊豆修善寺の某所

その他: 昼間に走行会あり(コース設定は泉氏担当)

11. 来期の運営について（加藤孝氏説明）

幹事会作業を分担(307の確認)

人事は会長が任命(加藤孝氏)（以下別紙資料参照、敬称略）

- ・ 会長(加藤孝)
- ・ 副会長(平山、加藤裕子)、
- ・ 会則案等作成(斉藤)
- ・ 名簿、走行記録等の管理(管)
- ・ 海外担当(内海)
- ・ 広報担当(白木)
- ・ 会計&全体の監査(片桐)

事務所： 加藤孝宅

なお、菅氏は本人の強い意志により、10月の総会後担当が変わる。(加藤孝氏)

また副会長に就任される加藤裕子氏は6/26までに速やかに海外担当の引継ぎを担当者の内海に行くこと。また、その他のところであっても人の足りないところなどは協力する(加藤孝氏、左海氏他多数)。

以上の人事は2004/6/19より効力を持ち、10月の総会で承認を得た後、来年度の幹事となる。すなわち、20004/6/19以降は来年度の実質的な幹事である。

以上の人事、運営に関する決定は最終的にすべて本人の了承と出席者全員拍手をもって承認された。10月の総会をもって「暫定」が取れて来年度の正式な幹事となる。

12. 運営について

この項目についてはかなりざつぱらんな意見が交わされた。決定事項のほかに提案と検討事項を列挙する。

12. 1 決定事項

以下の事項は全会一致で承認された。

- ・ この議事録は 307 決議と同等の効力を持つ。
 - ・ 主管という言葉廃止し、「主催者」を用いる。
 - ・ 走行会には 3 種類(BRM,BRJ,練習走行会)がある。
 - ・ RJ の保険へは本人が別の保険に入っているかにかかわらず例外なく加入していただく。
 - ・ お金の流れは会員から入会金のみをいただく。(保険料を含む)。それ以外の走行会費用は地域主催者が走行者名簿と共に管理する。継続的に実施する場合は運営グループで資金をプールする。その上で適当な割合のお金を RJ にプールする。
- この点については次のような意見があった。

1. すべてのお金をいったん RJ にプールしたほうがわかりやすいのではないか？(加藤氏、斉藤氏、井手氏)

2. 入会金と走行会費と保険料が一緒になっていたの、参加者がどのお金のつもりで支払ったのかわからず、困った(井手氏)。
3. 主催者がしっかり管理すれば支払いの方法はそれほど問題ではない(左海氏)
4. 運営グループで蓄えた資金はいずれ地域のクラブ化を目指した時の礎になるのでは？(左海氏)
5. RJの事務局にいったんプールするとすべての作業がRJ事務局に集中する。(白木氏)
6. 入会金だけでも郵便振替にすると明細が残るので良いのではないか。(片平氏)
- ・ 主催グループの資格は「RJ 会員で 400km 以上のブルベ(BRM、BRJ)を完走したことがあり、さらに RJ の走行会を 1 回以上主催したことがある人のいるグループ。または RJ 会長の認めたもの」とする。
なお主催者の資格については、次のような意見があったことを付記しておく。
 1. 主催者は「人」ではなく「グループ」と読み替えて良い(加藤孝氏)。
 2. 400km 以上の主催に関しては実際に走ったことが無ければ気づかないことも多い。400km の完走は望ましい。(井手氏)
 3. RUSA では主催者の完走距離の規定は無いが、初めての主催は 200km、300km に制限される。(齊藤氏)
 4. 阿蘇などの場合も考えると過渡期にブルベを広めるためには 400km 以上の完走という制限は必ずしも必要ないのではないか。(もちろん完走していたほうが望ましいが)(左海氏)
- ・ 事故が起こったときの保険は RJ のものを使用する。処理の流れは、まず第一は自己責任である。第二は主催者が初動対応をする。それ以上の問題は RJ で対応する。また、通常練習時に事故が起こった場合は本人が事務局に連絡すること。
- ・ 走行会の中止など、現場対応は主催者が行う。
- ・ 装備などのルールは RJ の走行会ではすべて統一して行う。

12. 2 検討事項

次の点は検討事項として残った。

- ・ 中止などの場合は主催者が判断するが、台風時などルートの変更はどうするのか？(澤田氏)
RJでのルール作りが必要ではないか？(加藤裕子氏)
- ・ 参加者の人数は制限されていないが、モラルなどの遵守はどうすべきか？(片平)
- ・ 主催者は主催すると走れなくなり、認定が貰えないので、何とかできる仕組みを作るべきである。これは BC 州などでも認められている。(井手氏)
- ・ RJ のユニフォームがあったほうが良いのではないか？(左海氏)
- ・ RJ のクラブマークはどうするか？現在は加藤裕子氏の個人が使用权を持っている。次の方法を考えるべきである。
 - 1) ロゴマークの所有者である村上氏へ加藤裕子氏が使用权を返却し、その上で改めて RJ としてロゴの使用权を頂くべきである。またその場合は村上氏の名前などを表に出したほうが良いかもしれない(左海氏)。
 - 2) 上記の際に契約書あるいは覚書を交わしたほうがよい(左海氏)。
 - 3) 上記 1, 2 が無理で、使用权が正式に得られない場合は新たに別のロゴを作成し、使用する他無い。
- ・ 文字だけのロゴも Web サイトに必要なので欲しい(白木氏)。
- ・ 来年度のブルベカード(加藤孝氏)、会員証(白木氏)なども RJ で作ったらよいのではないか？
- ・ 医者の協力で血液型、年齢などが記載されているカードを持って走ってもらうつもりで、岡山では作成しているが、RJ でも作成したらどうだろうか？(澤田氏)